

尾張旭市と愛知医科大学との包括的連携協力に関する協定趣意書

尾張旭市と愛知医科大学は、幅広い分野において連携協力し地域社会の発展に寄与するため、包括的連携協力に関する協定を締結した。

尾張旭市は、昭和45年12月1日に市制を施行し、平成22年度に市制40周年を迎えた。市は、平成16年6月にWHO健康都市連合に加盟承認され、同年8月に健康都市宣言を行った。「寝たきりにさせないまちづくり」、「外に出かけたくなるまちづくり」、「住み続けたいくなるまちづくり」の3つの施策の方針に基づき、さまざまな事業を展開し、健康都市の実現を目指している。

また、第四次総合計画の計画期間が平成25年度で終了することに伴い、現在、「みんなで支え合う 緑と元気あふれる 住みよいまち 尾張旭」をテーマとする次期総合計画（第五次総合計画）の策定を進めている。

愛知医科大学は、「新時代の要請に応え得る医師を養成し、あわせて地域住民の医療に奉仕すること」を建学の精神の主眼点とし、昭和47年度に医学部のみの単科大学として開学した。また、平成12年度には看護学部を開設し、2学部を擁する医系大学となり、平成24年には創立40周年を迎えた。

大学では、これまでも「特色ある医科大学づくり」に努めてきたが、「社会から評価され、選ばれる医科大学」を目指して、更なる飛躍のための新たな改革実現に取り組んでいる。

昨今、市や大学を取り巻く環境は、大きな転換期を迎えている。

市においては、市民起点、成果重視の行財政運営や健康都市実現にあたり、大学の持つ知的・人的資源を生かしまちづくりを進めることが求められている。

一方、大学においては、市民公開講座等を実施するなど積極的に地域社会との関わり合いを持ってきたところであるが、今まで以上に地域社会に根ざした「社会に開かれた大学づくり」、「個性ある大学づくり」が期待されている。

市と大学は、まちづくりや地域の活性化、大学が持つ医療分野などにおける知的・人的資源や施設などの活用といった事項において、市民生活及び文化の向上や地域社会の今日的諸課題の解決に寄与するため、包括的連携協力に関する協定を締結し、互いに計画的・継続的な連携を図る。

平成25年10月2日

尾張旭市
愛知医科大学